
メイド桃亜の非常識な日常

真黒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メイド桃亜の非常識な日常

【ZPDF】

Z83000

【作者名】

真黒

【あらすじ】

一般庶民の俺の家に、そいつは突然やって来た。何だと思う?メイドが来たんだよ!俺、宮間里一と非常識系メイド桃亜の非常識な日常のコメディーです!*ブログにて、番外編公開中です!作者紹介ページよりどうぞ。*更新予定日は毎週月曜日です(あくまで予定)。

プロローグ

最初に言つておぐが、俺はただの高校生男子だ。

親父とお袋は数年前に事故で死んじまつて、両親の残した遺産と保険金、それから時給800円のバイトの給料で食つていいくのが精一杯だが、それ以外はじぐじく普通の17歳だ。

裕福なんてわけでもねえし、特に不思議能力もない。

日々坦々と高校生活を送つてゐる、どこにでもいるような高校生だ。

だがな、そんな俺の家にやつて來たんだ、そいつは。
何だと思う?
來たんだよーメイドが・・・

第1話 桃亜が来た

その日、俺はやっと終わったバイトから帰ってきたばかりで、とても疲れていた。

まさか、家の前にそんなのがあるなんて、いや、一応“いる”としておこうか。まあとにかくそれは家の前にいたんだ。

さて、本題に入る前に少し知つておいてもらいたいことがあるんですね。

先にそちらから行こうか。

プロローグでも少し言つてあるが、俺は一人暮らし。

両親は自動車事故で五年ぐらい前に死んでいる。

家は可もなく不可もなくつて感じの一戸建て（ローンは保険金で返したが）。

あとはわずかなる財産と安いバイト代で細々と暮らしている。まあ寝るところだけには困らねえのが救いだがな。

「あーだりかつだりかつた・・・」

俺はそんな独り言をつぶやきつつカバンから鍵を取り出し門を開け・・・

「おおう！？」

そりや、ドアの前にメイド装束まとった女の子がいたら誰でも驚くわな。

しかもお休み中ときた。大きなボストンバッグを枕にして。おい、俺、落ち着け。

焦ついても何も進まないな。

よく観察する。変態じやねえか俺。

まあ場合が場合だ、しょうがねえか。
さてと。

もしこれが5・6歳ぐらいの少女なら、
『メイド服を着て遊んでいる途中で迷子になり、さ迷い歩いたた末、
ここに来てしまった』

と、考えられなくもないこともないこともないのだが・・・

あきらか同年代なのである。(しかも結構美人という、ね)
どうしようか。

つつーかドアにもたれかかって寝とるから開けられねえし。
起きこなせば。

「おい、起きる」

軽くゆする。

起きねえ。

「おい、起きろつて。つつーか人んちの玄関で寝るな、メイド装束。

「もが?」

何とも言えない奇声を発しつつ、メイド女は目を開けた。

「はわつ！はわわつ！？」

それから跳ね上がって、メイド服についたほこりを掃つた。

「富間里一君、ですか？」

あん?

いや、たしかにそうなのだが・・・

「何故に知る?」

「あー・・・話したら長いんですけど・・・」

そう言うとメイド装束はチラリとドアを見た。

ああ、中に入れろってか。

「入れるか変態！名乗れよ！」

「あ、桃亜^{もあ}つていいます。」

「どうから来た。何で俺の名前を知ってる？そんな正体のわからぬ

え奴を家に入れるほど不用心でもないんでね。」

桃亜、というらししい女はしばらく宙を見ていたが、

「あなたのお父上の知り合いのもの、って言えば入れてくれますか

？」

と言った。

何だと？

親父は五年前に交通事故で・・・

それに普通のサラリーマンだつたぞ。

メイド服の知り合いがいるなんて聞いてねえ。

「おい

俺は鍵を開けた。

「入れ。詳しく聞かせろ。」

女は嬉しそうな顔をした。

しゃーねえ。

まあこれが俺と桃亜の出会いだったわけであるが。

まさかこんなことになるとはね。

思つてもみなかつたのさ、そんときの俺は。

第1話 桃亜が来た（後書き）

えと、がんばりますんでよろしく・・・

第2話 桃亜がいじついる説（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツツコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜（17？）

いきなり里一の家にきたメイド装束女。

（天然）ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

第2話 桃亜が口にしている説

と、いうわけで、家（居間など）にはメイド女と俺が無言で向かい合っている。

はたから見りやあ相当地おかしな風景だうね。

「おい」

「何でしうか」

メイド女は（俺の入れた）緑茶をすすつた。

「親父と何の関係があんだよ。」

「長くなりますけどいいですかね？」

「ああ。なんでもいいから早く言え。」

メイド女、桃亜はまた緑茶をすすつた。

早く言え。

「私はあなたのお父上の親戚の友達、あれ、友達の親戚だっけな？ どっちでもいい！」

「まあ親戚の友達といつこにしておきましょ。」

で、親戚の友達の娘なのですが、お父様がその親戚のかたに1000万ほど借金をしてしまいましたね・・・

えーと、親戚の友達の親戚？

「あ、私から見れば、お父様の友達ですね。」

なるほどね。

たとえば俺のおじさん（たとえば、だぞー）その友達Aに金を貸したと。んでAの娘がこいつってわけか。

「しかしその親戚のかたは財産もあまりなく、破産しそうになり、あなたのお父上に同じだけ借金をして・・・」

「つまり俺の親父がお前の親父に金を貸したと同じになつた、つてことか」

「まあ、そういうことですね。」

「んで、どうしてお前がここに？」

「働いて返せとお父様が」

娘に押しつけんな

！

・・・さつきから疑問に思つていたのは俺だけか？

「何故にメイド？」

「お父様の趣味、ですね」

・・・おい、お前の父親大丈夫かよ・・・

つづーか、

「いやだし、雇うの」

「いや、私帰るところないんですよ。」

「えつ・・・・？」

それつて・・・追い出されたとか・・・？（白雪姫的な）

「お父様が、私が荷物を持って出て行つたあと、『食費が浮く』って言つてましたから」

サイマーの父親キタ

（ 、 、 ） ！

たしかにそれはかわいそう、かも・・・
ま、いいか。

なんか起こつてから心配すれば。（こんな楽観的でいいのか、俺！）

「まあ働くなら置いてやつても・・・」

「マジ！？マジですか！？やつたぜ！？」

・・・はいはい。

大丈夫なんでしょうかね、俺。

さて、前にも言ったと思うが、ここは俺と同じ年……俺は高校生。

こいつ・・・

「学校は？」

「行つてない？」

なぜ疑問形？

「行かないでいいのか？」

「あんま良くないんじゃないですか？」はは

・・・こいつも俺と同じ、楽観主義らしいな・・・

・・・

「どーしましようかね？」

俺に聞くなああ！！

「そりだあ！YOSHと同じとこに編入したらいいんですYOSH！」

誰だよ・・・

で・・・変に敬語使わなくていいからね・・・

本人いわく「メイドですから」・・・

「あ、編入試験とかつてあるんじゃね？」

「私頭いいですし」

で、ほんとに頭良かつたり良くなかつたり・・・？

受かつてましたけどね。

第2話 桃亜が「ここにいる説」（後書き）

読んでくれてありがとうございました！
評価してくれたらむづちゅ嬉しいです（ 、 、 ）

第3話 学校へ行こう（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツツコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜（17？）

いきなり里一の家にきたメイド装束女。

（天然）ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

第3話 学校へ行けりー

「おはよー・・・つてええー!?
みんなの視線が痛いんですけどね・・・
まあ、俺見てるんじゃないけど。
後ろのね・・・メイド装束をさ・・・

「郵便来ますよー」

桃亜とかいうメイド女がうちに面候(?)する事になつたのは言
つたはずだよな。
なんかいろいろあって・・・同じ高校に編入することになつた?み
たいで。

「郵便?」

「はい。んーと・・・梅坂高校?」

うちの学校 !

「学校から?」

「何でしじうね?」

俺宛の手紙を勝手に開けんじやね
つて・・・紅田桃亜(じゅうたももあ)? (ふーん、本名知らなかつた。)

こいつ宛かよ・・・

何々? 合格通知・・・

つてことで、今に至る・・・んだが・・・
校長室までこいつを連れて行かなきゃならぬーらしい。
めんどい。

つづーかハズい。

メイド服とかやめてくれよ !

里一は(精神的な)300ダメージを受けたーーー!

さて、俺が校長室に行きたくない理由は、桃亜がいるだけではないんだよ。

「失礼します・・・校長、転校生連れてきました・・・」

現校長は亡き前校長・梅坂時宗の妻で、

「あ、連れてきてくれた! ん? ありがとう! 」「

関西人である

卷之三

おみのよー

びつくりするとい違つて

つーか違う！

「彼女じゃないです！ビアンカ校長！」

「ビアンカつてカタカナで言うな！私は美杏華や！」

校長 梅坂美杏華（30代前半くらい？）

金髪書目のフランス人

好きな食べ物 たこ焼き 焼きそば お好み焼き

何でよ一見たぬめに女に變じやぐに

まあ美人の倍数にはなるんじゃねえか。標準価は

支那の歴史と文化

「二ハのまニギ一ツアレニ云イ」アレニ云イ二
二三

「海はハ開港、二逃泊。一二

「はつじゆ」

つてか桃亜！

意味わからん！なぜそこで嘘をつく？

「あかん！ ヘッドロックはあかんて！ それはリアルに桃亜ちゃん死

ぬて！」

「…………ぐがあああ…………」

ヘッドロックを知らない子はお父さん「聞いてみよう

「も、桃亜ちゃん！誰か、助けてください！」

校長、セ チュー知つてるんだ。

「「めんなさい嘘つきました。」

「なんであるな嘘つきやがつたあ？このメイド装束が！」

「その方がコメディー的に面白いかなって思つ…………ぐあ！」

「まあまあ、富間君そんな怒つたんなつて。あつ、あかんてアイア
ンクローも！」

謎な光景シリーズ第一弾！（第一弾は一話の最初）
フローリングに正座するメイド服（桃亜）と、
それにプロレス技をかける男子高校生（俺）、
それを仲裁する金髪美女（校長）・・・

どう見えるんでしょうか？

「失礼しま・・・？」

あ、ちよつとそんな時に入つてきたのが・・・

「柊さん。待つてたんよ、入つて入つて！」

わがクラスの委員長、柊実亜ひじいきあである。

柊は桃亜を見て、校長を見て、俺を見て、

「お邪魔しました」

なんか誤解してない！？してるよね？絶対してるよね！？

「実亜ちゃん、この子（今しめられてるけど）、桃亜ちゃんつてい
うねん。実亜ちゃんのクラスに入るから面倒みたつてな」

「・・・がんばってみます！」

・・・がんばつてください。

学園「メディア」なのに四話目（プロローグ+3）にしてやつといれ
学校登場！

大丈夫か、作者！（大丈夫じゃない・・・）

第3話 学校へ行けりうー（後書き）

がんばりましたよ！

テストの4日前だというのに・・・（勉強しようと
勉強します！

ので、水曜日まで更新できません・・・！

よろしければコメントお願いします（*・人・*）

第4話 学校へ行つてみた！（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツツコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜（17？）

いきなり里一の家にきたメイド装束女。

（天然）ボケ担当っぽい。

普通じゃない。でも頭はいい。

第4話 学校へ行つてみた！

ちょっとと考えてほしいうことがある。

第三話のことだ。

『わがクラスの委員長、**柊実亞**である。』

『実亞ちゃん、この子（今しめられてるけど）、桃亞ちゃんつてい
うねん。実亞ちゃんのクラスに入るから面倒みたつてな
この事から何かわかることはないだろ？』

柊実亞は俺のクラスの委員長＝俺と柊は同クラス
そして、柊のクラスに桃亞が入る・・・

そう。

桃亞は俺と同じクラスなのだ・・・！

とまあ、そんなおぞましい事に気づいた俺は、なんとか出来るはず
もなく、ただ教室の自席に座つていることしかままならなかつた・・・

・（泣）

「リーチ！」

俺のあだ名である。

「んあ？ ああ、信玄か。」

「シケた面してんじやん？」

こいつは俺のまともな友達、**武田信一**である。

ニックネームは信玄。

言つまでもなく、**武田信玄**から来ている。

「いや、まあね」

「？まあいいか。それよりよお、転校生来るつて知つてるか？」

情報はや！

「女子だつてよー。」

知つてるから。

つていうか、憂鬱の原因、それだし。

「楽しみだよなあ。」

全然。

何が心配かつて、『制服がまだ届いてないから今日だけ私服』つて
いうのが怖い。

バリメイド服じゃん！？

みんなの反応が怖い。今から。

「席に着け」

担任が来た。

うちの担任は、東海林理沙。（どうやつたら東海林をしようと読
めるのか未だに理解できない・・・）

若くて美人だが、好かれない。

なぜなら、好きな事は、お気に入りの生徒をいじめ倒す事という、
どこの先生だから・・・（怖ええ・・・）

「転校生を紹介する」

うわあ、ついに来た・・・怖ええ・・・

？

あ、そつか。

うちに居候してることがばれなきやいいんじゃん？

よしー隠し通すぞ！

「ちなみに転校生は宮間のしぐれ居候してゐる」

いきなりばれた

！

視線が痛え！くそ・・・あのサテイスト教師めが！

ガラガラツ！

来たよもう！

・・・読者にはわかつていてもらいたい。

俺はメイド萌ではないからなああああ！

みんなの視線が桃亜に向いた。

やつぱりメイド服だあああ・・・

「はじめまして、紅田桃亜と申します」

桃亜が黒板に名前を書いて、一礼すると、みんなはやる気のない拍手を・・・

つて・・・？

あれ？

普通じゃね？

いや、これは俺の予想していたことなんだが・・・
『え！？メイド！？メイド！？宮間君ってコスプレ趣味あったの

！？』

みたいな展開をだな・・・

？

ホームルームが終わってからのこと・・・

「なあ、信玄、転校生どう思つた？」

「は？ああ、お前んちに面会してくるやつか？んー、俺とじつは上の下？割と美人だつたしなあ・・・」

上の上りでのを見てみたい。

じゃなくて。

「服装だよ服装！」

「服装？別に気になる服装でもしてたか？普通じやん

普通じやねえ

！

「里一君　ーーー」

噂をすれば来た。

「？？？」りひりの方は？？

「どりも　ーー武田信一です、よひじへーーー」

上のトとが言こながりもじつかり、血皿アーピールしてんじやねえか・・

・

「どりも、紅田桃里です」

「信玄、ハツキリ訊くぞ。メイド服を見てなんとも思わねえのか?
「普通にかわいいじゃねえか」

・・・。

まともな友達だと思つてたのに・・・

変人の友達がまた増えたよ・・・

「里一君、もうこの話終わっちゃいますよー。」

なんだつて!?

「『また増えた』とか微妙な伏線はつとくんですね」

微妙とかつて言つな!

第4話 学校へ行つてみた！（後書き）

テスト明けました！（結果は…聞かないでください）
と、いうことで、バリバリ更新します！！

よろしければメッセージお願いします（^ ^）

第5話 委員長実亞のアン・ラッキーな日常（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツツコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜（17？）

いきなり里一の家にきたメイド装束女。
(天然)ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

武田信一

里一の友達。

基本的には普通だが、若干ずれている。

柊実亜

里一のクラスの委員長で、割とまじめ。
ショートカットのメガネっこちゃん。

第5話 委員長実至のマン・ラッシュキーな日常

前回微妙な伏線を張つておいたのだが・・・

(『また増えた』つてやつな)

そう。俺には変な友達がたくさんいるのだ・・・

前々回より登場の柊実至なんてまだましな方である。

(でも変)

とか言ってたら来た。

「紅田さん」

「はい?」

どうつ

「これ、教科書です。」

「ありがとうございます。」

「校舎案内しましようか?」

「お願ひします」

おお、わつわく友達ができたみたいだな。

まあこれだけ見たら礼儀正しい普通の委員長だわな。

「まづ」の校舎が北館で・・・」

ガラガラッ

今の音は柊がドアを開けた音だ。

ばふつ

今の音は、誰かが仕掛けた黒板消し（ドアと壁の間に黒板消しをはさんで開けたら落ちてくるやつ。また古風な……）に柊が引っ掛けた音だ。

「だ、だいじょうぶですか？」

「はい、よくあることですから……！」

「べしょっ！」

今の音は誰かがキャッチボールをしていたボールに柊があたった音で……

「委員長は今日もついてねえな、かわいそう」「元気

「今日もつて……いつつもじやねえの？」

「なあリーチ」

「ん？」

「委員長と桃里ちゃんがバケツの水かぶつた

「……。」「

そり、我らが委員長、柊実亞は不幸体質なのだ……

「ばしゃああああ！」

「あやああつー！」

「かっ！」

「ひやああつー！」

「スッ！」

「わあああー、柊さあああああんー！」

・・・・・。

鈍器投げたらダメでしょ・・・

「里一君ー、どうしましょー、どうから飛んできたー、富金次郎像に
柊さんが頭をぶつけて氣絶してしまいましたーー！」

「富金次郎像！？」

誰だよ・・・投げたやつ・・・

つていうか、

「よく氣絶だけですんだな・・・」

「よくあることだつて言つてました！」

よくあつてたまるか！

「・・・あ

おお、目を覚ました。

「また銅像に当たつてしましました・・・先週はビンケンさんだつ
たんですけどね」

だれだよ通天閣から持つてきたやつーー！

「委員長大丈夫？」

「？あ、ああ、信玄君・・・はい、大丈夫ですよ」

そりいつて委員長は二口、とほほ笑んだ。

「わかるカリーチー？」

「は？」

「ああいうのが上の上なんだよ！」

おまかせのうどん

「めちゃくちかわいいだろ？が！」

161

「委員長が好きなの？」

二、圖說。

「ちがッ・・・・！」

無視ね。

לְנִזְבֵּחַ וְלִזְבֵּחַ תְּבִרְכֵנִי יְהוָה אֱלֹהֵינוּ

「なんにもねえよ」

「ホントですかあ？嘘ついたら『味噌カツ』になっちゃいますよ！」

ならねえよ！（味噌カツうめえし・・・）

「あのなあ・・・泥棒の間違いじゃねえのか?」

「でもお父様か・・・」

お前の父親、まじで大丈夫か？

柊が立ち上がりつて、

「うんない」とぐらいで倒れてるようじゃまだまだです！」

十分立派だぜ委員長・・・

「委員長、ファイトー。」

お前が頑張れ、信玄・・・

その時。

ダダダダダダダダダダダダダダ

ん?

なんだこの闘牛が走りくるような効果音は?

と、そんなことを考へてゐるうちに、

ツビおおおおおんつ!

「わああああああああー。」

うわー、柊が吹つ飛んだ。

「おい闘牛」

柊に突つ込んで倒れていた闘牛は、ムクッと立ちあがつて、

「つるさいなあ、誰が闘牛よー。」

と俺に向かつて叫んだ後で、首をひねつて、

「あれ? おつかしいなあ? あんたに向かつて突つ込んだはずなのに、なんであんたがそこにいるの?」

「新キャラ登場ですね~」

「ちよつと里ー。なんで『幼馴染キャラ』の登場が六番目なのよ?」

「!?」

うへん、俺に聞かれてもなあ？

つてことで、こいつの紹介は次話に回します

第5話 委員長実直のアソ・ラッシュキーな日常（後書き）

柊さんの実態が明らかに！？

なんて大げさですけどね（ワワ

これからも『キャラ増加用間』続きます！（今考えた）

あ、余談なんですね、私関西人なんですよ。
だから美杏華校長のセリフが書きやすい書きやすい…

（オチは無しです ホントに余談ですね）

んでわこの辺で

よろしければメッセージお願いします（・・×・・）

第6話 新キャラ登場（しないでほしかった… b y 里一）（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツツコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜（17？）

いきなり里一の家にきたメイド装束女。
(天然)ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

武田信一

里一の友達。

基本的には普通だが、若干ずれている。

柊実亜

里一のクラスの委員長で、割とまじめ。
ショートカットのメガネっこちゃん。

梅坂美杏華

里一たちの高校の校長。
金髪青目のフランス人。
でも関西人。

第6話 新キャラ登場（しないでほしかった…ボロ里ー）

「へへへ、やつ言えばなんで柊ちやん倒れてるのかな？」

それはお前が柊に向かつて突つ込んだからだ。

「あつ、柊ちやん！」めん！」

「あは、あはは、お花畠の中でおばあちやんがリンボーやつてます

（～）

・・・俺にもその幻覚を見せてくれ・・・

「あなたよねえ、ここの家の居候してのメイドさんで」

委員長にこんな幻覚を見せた張本人は桃亜を指をして、

「こちわつ、私、お隣の皆川千亜里！」

そう、ここの『今世紀最大のトラブルメーカー』といつ異名を
もつ俺の幼馴染である・・・（泣）

聞いてくれよ、幼稚園からずっと同じクラスなんだぜーー？

しかも、『みやま』と『みながわ』だから出席番号も近い・・・

「もうこつは小さい頃から『味噌カツ』なんだからまこつちやう
わよねえ」

俺味噌カツー？

もしかして今、男を特産物に例えるのがブームなのか？

「里ー、ここの子になんかしたら衣をつけて焼いてやるわよー・もつ
んソースは味噌ー！」

?

ああ、味噌力ツね・・・

腰まで伸びた長い髪を無造作にたらじてこる・・・
普通にしてりやなかなかの美人なのに・・・
普通じやないからね・・・

「あつ、おじいちゃん、そんないじしたつお体に障りますよー」反復

横とびなんて!」

柊さんまだ幻覚見でました。

「柊ちゃん、起きなさい

「もう、やめてください、ひいおばあちゃん・・・ん?」

起きた。

あ、わかつた。なんでみんなが桃亜みて驚かないのか・・・
それぞれのキャラが濃すぎるから・・・

（放課後）

「あーあ、歩いて帰るのめんどくさいなあ

そんない」と言われても・・・。

「里ー、おんぶして帰つてえ

「おい、おまえなあ

「俺もだりい。リーチ、おんぶして帰つてえ

殺すぞ信玄！

「今日は何かと疲れましたあ

「委員長だつたら俺が担いで帰つたげるよー」

「あ・・・いえ（汗）

がんばれ信玄！

「里一君里一君ーー」こんなもん落ちてましたよー。」
「ん?あ、買い物メモじゃん。

「何何?イカ、マグロ、大根、味噌、ニンジン」

「今日の晩御飯はお刺身とみそ汁やねー。」

お、「」明答。

今日の晩飯はイカとマグロの刺身、それから味噌汁だ。

「あ、桃亜、買つてきて

「今からですか?」

んー、帰つてからでいいかな?

「ほな帰ろか

「」

「そうだな、帰るか、桃亜

「はい、そうですね

「あ

「ね!」

「え、じゃあ私も・・・」

「委員長が帰るなら俺も

「じゃあうちも一緒に帰る

「」

みんな家は同じ方向だつたりする。

結局みんな一緒にねえか・・・

・・・。
・・・?
・・・?

「美杏華校長 一?」 × 5

「ええー? なんでえ? あかんのぉ?」

「校長は仕事とかないんすか?」

お、信玄がまともな」と言つた。

「うん、めつちや有る」

ダメじゃ
ん!

それからみんなで美杏華校長を職員室に引っ張つて行つた。
そしたら東海林先生が来た。

「嫌や嫌や! うちも帰る!」

「校長先生は残つて仕事なさつてくれださいね」

「嫌やあああ!」

「・・・校長先生?」

そしたら東海林先生は美杏華校長になんか呟いた。

「すんませんでした。」

あつさり謝つた!

何言つたんだ東海林先生!

「やつぱり東海林先生に来てもらつて正解でしたね

「なんであつさり言うこと聞いたんでしょ? う?」

(俺) 「うーん、なんとなく?」 (格) 「うーん、まあほんやりと
は」

格はわかるんだな。

「やつぱり東海林先生には、NYIKパワーがあるんでしょう?」

「なんですか、それ」「なんだよ、それ

「なんか

やつぱり

いうことを

きいて

「NANNKA YAPPARI SIMAU パワーです」

すげえ・・・

「桃里さんは想像力が豊かですね！」

そう思うつ委員長もすげえ・・・

ななななんとお！

コメントをいただけました！！

ひーくり&超嬉しい！

あじかとハリヤー捕獲 () m () m

第8話 はじめのむづかい（爆（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツツコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃里（17？）

いきなり里一の家にきたメイド装束女。
(天然)ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

武田信一

里一の友達。

基本的には普通だが、若干ずれている。

柊実里

里一のクラスの委員長で、割とまじめ。
ショートカットのメガネっこちゃん。

第8話 はじめのむづかご（爆）

「こつてきまます」

「おつ、氣つけりよ」

学校から帰ってきた俺は、桃里に晩飯の材料の調達を頼んだ。
その間に俺は、洗濯だあ！

ピンポン

ん？誰だ？

「私よお！開けなさい！」

千里

！

あつと・・・ややこしことなる・・・

ピンポンピンポンピンポン

うぜえ！

わかつたよお！

「いやあ、お母さんパート始めたのよねえ、わすれてた！…」

「んで、なんで茶碗と箸を持つてるんだ？」

「今日、刺身なのよねえ？楽しみ

」

・・・？

ヨイチヨウツトマテヒ

！！

「食つていいくつもりかあ！」

「んふふん あつたりまえじやない

」

ひゅーつか

！

ピンポーン

「お、桃亜か？」

「ねえあんた、桃亜ちゃん襲つたりしてないわよねえ？」

ふふおおおお！

「んなわけないだろ？がこのボケがああーーー！」

「ふーん、じゃあいーけど」「

ちなみに桃亜はお袋の部屋を拠点としている。
もう桃亜の部屋と化しているが。

ピンポーン

「はいはい、今開け・・・」

ガチャ

「リーチ、お邪魔するぜー！」

「あ、私もいいですか？」

委員長と信玄来た

！

「・・・」

「いやあ、委員長が家の鍵忘れたとかで、入れねえらしさいからわつ
！」

「んで何で俺の家に来るんだよ？」

「ん・・・成り行き？」

「うおい！」「

「ひまねえ・・・」

「暇だなあ・・・」

「ひまねえ・・・」

「ヒマですねえ・・・」

・・・願わくは帰つていただきたい。

「テレビでも見ましょうか

「そうですねえ」

「リーチ、水かお茶、ない?」

・・・もつひとつむのも疲れた・・・

ちなみに俺は掃除中だ。

チャララ～チャララララララララチャララ～

ん??

テレビが、何を見てるんだ?

「キャー、始まつたわよ、『必殺・テルテル坊主仕掛け人』ツ!!」

範囲せめえ

!

つづーかテルテル坊主を殺して何の意味が・・・

「あつ、私も見てますよ! 乾燥肌のテルテル坊主仕掛け人は湿氣を
求めるあまり、子供たちのつるしたテルテル坊主を殺して雨にする
んですね」

やめうよ・

子供たちの夢を壊してやんなよ!

ちなみに信玄はといふと、最初はシケた感じの目で『必殺・テルテル坊主仕掛け人』を見ていたが、終わるころには千里と終をしのぐテルテル坊主仕掛け人のファンになっていた・・・なんじやそりや。

ピンポーン

「ただいまです！」

「お、おかえり」

「なんだこれは」

「え、イカとマグロと大根と味噌とニンジンですけど」

「桃亜さん、これはちょっと・・・」

「あつははははは！ナイスね！」

「晩御飯、どうなんの？」

なんどよりによつてイカリングとツナとニンジングラッセを買つてくるんだよお！

極めつけは『味噌カツ』かよおおお！

「まともに買えてんの大根だけじゃん」

みんなでイカリングとニンジングラッセとツナ大根サラダと味噌カツを食べました。

「あつ、ブードウ人形侍始まつてますよ！」
・・・もづいい。

第8話 はじめのめりかご（爆（後書き）

どーも！

読んでくれてありがとうございます、
マンガを8冊もまとめ買いしてしまい、お金がやばい状態の華蜜です；

いやあ、いいですよねぇ、漫画。

コメントお願いします（ - 人 - * ）

第9話 迷走ヤマトナナテシロ（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツツコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃里（17？）

いきなり里一の家にきたメイド装束女。
(天然)ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

武田信一

里一の友達。

基本的には普通だが、若干ずれている。

柊実里

里一のクラスの委員長で、割とまじめ。
ショートカットのメガネっこちゃん。

第9話 迷走ヤマトナデシコ

桃亜が奇想天外なおつかいをしてきたため、イチからおつかいを教えています、
どうも、富間里一です。
めんどいです。

そして、

「スーパーとか久しぶりに来たぜ」
「ほんと、何年ぶりでしょう?」
「あつ、見なさいよ!これ味噌カツよツツ!」
「あ!ホントです!里一君、買いですよねつ!」
みんなも一緒にです。

「千亜里、味噌カツばっかり入れない!
信玄はマヨネーズ持つてこい。終は牛乳ね。
桃亜はお菓子返してこい」

俺はお前らの母親かってんだ!

ぐいぐい
ん?桃亜?

「あれ、何でしうね?」
「あ、人だかりができるな。
なんだ?」

で、みんなで見に行く。(野次馬だな)

「貴様・・・大和家のものだな!?」

・・・着物を着た女の人が暴れてた・・・

見てたら目が合った。

うわあ・・・

とか思つて目をそらしたらこっち来た・・・

「ああッ？ 桃亜じゃありませんの！」

え？

「撫子ちゃん！？」

・・・桃亜の知り合い？

（マドでみんなで昼飯）

「私、わたくし浅倉撫子あさくらなでこと申します

桃亜の親友ですの」

「撫子ちゃんは、茶道の名門、浅倉家のあとり娘なんですよ」

黒髪を結いあげ、黒地に撫子の花が描かれた着物をまとった彼女は、まるで大和撫子・・・

シャキーン！

首に何か冷たい感触・・・

th a・刃物

！！

撫子を
ん！？

「私が大和撫子ですって・・・？馬鹿をおっしゃい、私は浅倉撫子ですわ？」

そういうみじやねええええ！！

つてか、これ何！？ねえ！

「なつ、撫子さん、そういう意味ではないっすからー。」

「あら？ そういうの？」

信玄ナ

イスッ！

何かと思つたらクナイでした・・・

【クナイ】 忍者が使用した小型の道具である。容易に秘匿できるような形状をしている。漢字で書く場合は「苦内」「苦無」等と表記される。元々は工具であり、持ち歩いても不審に思われなかつたことから忍者が武器として使つようになつた。

サイズは10 - 15cmで、平らな鉄製の爪となつていて、壁を登つたり、壁や地面に穴を掘るのに使用された。

忍者の使う道具としては手裏剣やまきびしと同様に良く知られてゐるが、良質な鍛鉄で作られるためあまり利用されなかつた。

小型のものは手裏剣のように使われる」ともあり、「飛苦無」と

びくなこ)と呼ばれ、田標に刺すのが棒手裏剣より難しいことから命中させるのは相当の手馴れ(てだれ)とされた。

んで、どこにしまつかといふと・・髪の毛のお団子ですか・・クナイの持ち手には飾りがついているから、髪の毛にさしても自然だ。(それでもないか)

かんざしつぽいね

「んで、撫子さんはどうしてここにいるんですか?」

「そういえば“大和家が・・・”とか言つてましたよね?」

「実は・・・」

浅倉家あととり、撫子は複雑であった。
なぜなら、話したこともない相手と婚約をしなければならなかつたから。

写真は見た!

顔はいい。

でも会わなきや無理だ。

「はじめまして、僕、やまとだいき大和樹と申します」

無理ですわ

!

「というわけですわ

「え?」×5

「なんでそれで無理になるの?」

「だって・・・結婚したら私、『やまとなでし大和撫子』じゃありませんの!?」

理由それだけえええ!?

「・・・ううツ・・・」

「かわいそうな撫子さんです・・・」

「俺たちが味方だからな・・・！」

「撫子ちゃん・・・相談してくれたらよかつたのに・・・」

「・・・そうだわ！撫子ちゃんも里一の家にいればいいのよー。」

いやいやいや、泣くといじじやねえだろ。
つて、え？

・・・・・・。

なんですか
！？

「おーい！ちょいまてええツ」

「・・・里一」

「リーチ、お前がそんな人でなしだとは思わなかつたよ・・・」

「里一君・・・」

いや、ちょっと待つて、おい。

俺は助けを求めるように柊を見た。
柊は、俺をちょっと見て、

「・・・最低です」

！――！――！

ひつ・・・柊までえええええ！？

・・・くそお！

不幸体質キャラなのに最近全然不幸じゃねえじゃね……ぶはッ…?

「委員長の悪口を言つものは俺が制裁する。」

怖ええええ…!

信玄、いつになく黒いオーラが…

つていうか、やめろよ、その死んだ魚の目で俺を見るのは…

「…・・・富岡君、残念です・・・」

残念!…?

「むづこよおおお…」

「やつたわ…」

「よかつたなあ、撫子ちゃん!」

「さつすが、里一君です!」

「これからよろしくです、撫子さん」

・・・・・Oh - I - m very a n n a p p y . . .

はつ…

ショックのあまり英語が出てしまつたぜ…・・・

ペシリ

ん?頬に軽いものがあたつて…・・・
何だ?

・・・・・?
。・・・・?

札束

！！

「これ、お礼ですか」

と、いふことで、浅倉撫子が俺の家に来ました

！！

「今日の晩飯は奮発して鯛飯だぜ
「やつたあああ！」 × 4

第9話 迷走ヤマトナビシロ（後書き）

いやあ・・・久し振りの更新ですね！
すんません、待っていただいた方々・・・
これからも精進しますじゃ！！
ので、よろしくお願ひします（××）

第10話 桃里と撫子と朝（前編）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツツコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃里（17？）

いきなり里一の家にきたメイド装束女。
(天然)ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

浅倉撫子（17っぽい）

婚約者の大和家から逃げてきたヤマトナデシコ。
結いあげた髪にはクナイが隠されている。

第10話 桃亜と撫子と朝

俺の朝は早い。

6：00に起床、弁当をつくり、洗濯物を取り込み、朝飯の準備をする。

最近は桃亜の分も作るから、割と時間がかかる。
(桃亜には料理させたことがない・・・怖くて)

6：30

ジリリリイイン！

桃亜と撫子さんが寝ている部屋から目覚ましの音が聞こえてくる。
(本人たちは7：30にセットしているつもりだが、時計を1時間遅めてある。洗濯できないから)

ゴシシャアアア！

・・・・・。

なんか・・・生々しい音が・・・
新しい目覚まし買わなきゃな〜

さて、どうやって起こすかな・・・

2人はお袋の部屋に布団をしいて寝ていた。
「勝手に入るんじゃねえよ！..！」

ビクッ！..

「そこ」は私のトリトリーよ……むにゃ

寝言！？

ちなみに桃亞の寝言ね、今の。

鮭
?

「私のタバスコをとりましたわ！！！！！」

辛い鮭になりそうだな

一 気飲み！一 気飲み！」

危険ですよタバス一氣は

ニヤニヤが起るのも…！

卷之三

•
•
•
•

一起考N1

•
•
•

一起考N1

•
•
•
○

•
•
•
•
•
•

新編　日本書紀傳

7
:
3
0

車
角

今日の朝飯は、トーストとヨーグルトという、珍しく普通のものである。

「あ、里一君、ジャム取つてください」「はいよ

そこのには撫子ちゃんで
学校と二にするの

え？ えええええ！ ？

・・・二つ以上変なのが見える

「芝翫」

「お前、何をやなしそう？」

そう、桃亜の学費は俺が出していくのだ・・・
おかげで家計は火の車さ・・・

「あー、自分で出しますのよ。私はお小遣い、全部持つてきました

۲۷

お小遣いで・・・

「まじ」

ゞれり

ん?

効果音おかしくない?

「わわ・・・札束ああー!?」

おかげで少し家計が楽になつたつです。

第10話 桃里と撫子と朝（後編）

うわああ！

10話達成！！

皆様のおかげでござります！

ありがとうございます！

（更新遅れています。。。）

これからも末長く見守つてください。。。よ

りしければ御意見・御感想お願いします

第1-1話 桃実亜の訪問（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツツコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜（17？）

いきなり里一の家にきたメイド装束女。
(天然)ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

武田信一

里一の友達。

基本的には普通だが、若干ずれている。

桃実亜

里一のクラスの委員長で、割とまじめ。
ショートカットのメガネっこちゃん。

皆川千亜里

里一のクラスメイトでお隣さんで幼馴染の腐れ縁。
なかなか美人だが馬鹿なのでモテない。

第1-1話 栄実亜の訪問

「わん！わんわん！」

私は愛犬ピッピの鳴き声で田を覚ました。

「おはようござります、ピッピ」

はつ！？

なぜ今日は私田線なのでしょうか！？

うーん、ちょっと宮間君に申し訳ないです・・・

まあ、ぐちゃぐちゃ考えてもしようがないですよね

こんにちは、委員長の栄実亜です。

今日はなぜか私田線なので休田の私ののんびりライフをレポート・・・

え？ それじゃあ面白くない？

誰ですかあなたは？ え？ 作者？ 何の？

うーん、邪魔が入つてしましました・・・

それにもしても面白いのんびりライフっていうたいどんなものなんでしょうか？

面白いものと言つたら桃亜さんや宮間君でしょうか？

そつです！ 遊びに行きましょう！

プルルルルルルル プルルルルルルル プルルルルルルル

ん～、なかなか出ませんねえ・・・

「はいもしもし、宮間です！」

「あ、こんにちは、栄です」

「委員長？何？つづーか今電話しよつと歸つてた！」

「ヒマなので遊びに行こつかと」

「あ、オッケー！来て来て！信玄も誘つてきてくれない？人数多い方がいいんだよね～・・・」

「何かするんですか？」

「いやあ、桃亜がクッキーを作るらしくて・・・みんなで食べよう

と・・・」

「えつ、いいんですか？」

「いや、感謝したいのはこいつちの方で・・・ほら人数多い方が一人あたりの被害少ないだろ？」

一瞬行くのやめようかと思いましたが、これも面白のんびりライフのためです！

まずは信玄さんのおしごと寄ります。

信玄さんのおしごと私の住むマンションのとなりの隣にあります。

ピンポン

ガチャッ

あ、信玄さんです。

寝起きなのでしょうか、まだパジャマです。

起こしてしまったのなら申し訳ないですねー・・・

「だれ・・・こんな朝早くに・・・つて委員長

「おはよびざいます、信玄さん」

「おおおおおおおはよ・・・ちよつとまつててーすぐ着替えてくるから！」

バタンッ

五秒後

ガチヤツ

「うるせー、おまたせー。」

うわー、高速通り越して音速です！

早着替えの得意な小粋な忍者見習いさんもびっくりですね！

さて、信玄さんと二人で高間町の家に向かいます。

「で?リーチの家に何しに行くんだって?」

「桃亜さんがクッキーを焼いてくれるそうなのでお呼ばれに・・・」

「えええっ！？ も、桃亜ちゃんがクッキーを！？」

— ● ● 途中で

薬局に行くと、なんと千葉里さんがいました！

「あれ〜? チアリンじゃんッ?」

「あツ、信玄に終ちゃん？ デート？」

みたいな) · · · 「

「いいえ」

- 1 -

「ふん、もしかしで里の家にお尋はれ?」

「あ、これはヤバい」

「は二・・・・・」

• • • • • —

それからじいじやいへ信玄さんがじょんぼりしていた様子だつたんですね
けど・・・

『氣のせいでしょかね？』

第1-1話 栄実亞の訪問（後書き）

いやあ・・・

更新遅れてごめんなさい・・・

まあテストだつたんですけどね。

具体的に言つと、社会が壊滅ですね。

これからはもっともっと更新に励みたいですね
ですので・・・

末長く温かく見守つていってください（・・・）

第12話 桃亜クッキング（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツツコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜（17？）

いきなり里一の家にきたメイド装束女。
(天然)ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

皆川千亜里

里一のクラスメイトでお隣さんで幼馴染の腐れ縁。
なかなか美人だが馬鹿なのでモテない

武田信一

里一の友達。

基本的には普通だが、若干ずれている。

柊実亜

里一のクラスの委員長で、割とまじめ。
ショートカットのメガネっこちゃん。

浅倉撫子（17っぽい）

婚約者の大和家から逃げてきたヤマトナデシコ。
結いあげた髪にはクナイが隠されている。

第1-2話 桃亜クッキング

なんか前回は終視点だったけど、今回ばかりは（＾＾）俺です。
里一です。

昨日、急に桃亜が

「今、トレンドはやっぱ料理ができる女ですよねえ！…？」

とかなんとか満面の笑みで俺に聞いてきたあたりから事は始った。
メイドなのに料理できないのかよー…といつも「//は無しの方向で。

「料理？んー、できないよりはできた方がいいんじゃねえの？」

などとパソコンでネットゲームをしながら「キーボード答えてしまつ
たもんだから、

「ですよねえ？
よしークッキーを作りついー！」

なんて宣誓されてしまった。

そのときは

「マンガみたいに爆発なんてこたあねえだら、食べれなさそうだ
つたら残せば・・・」
と考えていたのだが、
「残したら死刑～」
と風呂掃除をしながら口づさまれたので残すわけにはいかなくなっ
た。

「被害者は多い方がいいですわ。一人あたり食べる量が減りますもの。」

「のわああああ！？ななな撫子さん！？いつから後ろに・・・」

「そうときまれば皆さんを呼ばなくてはなりませんよね？」

「そうだよな・・・」

次の日（つまり今日）、千両里と信玄と委員長がやつてきた。胃腸薬を持って。

（詳しく述べ第十一話「終実亜の訪問」をよんでもうださー）

「やけましたよ～～～」

桃亜がクッキーが山ほど入った皿を持ってきた。

つていうか量がやたら多い・・・

「み、見た目は普通ね・・・！」

「つていうかむしろおいしそうです、見た目は。」

「だ、誰が最初に食べますの・・・？」

「そこはほら・・・普通リーーチだろ？」

「おッ、俺かい！？」

「なにをこそこそ喋ってるんですか？
早く食べましょうよ？」

も、桃亜が怖ええ・・・

「せーので行くわよ、いい？せーの・・・」

パクッ

「あれ？」

つてゆーか、

「これ・・・おいしいぞ？」

「ホントです！意外です！」

「なかなかいけますわね・・・」

「なにこれー！？おいしいじゃなーのー！」

「おいしこそ・・・」

びりじてだらり。

フライドチキンの味がするのせ。

「あのぉ、桃里さん？」

「なんですか、里一君？」

「何を入れたのかなあ、」これは。

「え~っと、ブラックペッパーとお、手羽先とお・・・」

うん、その時点でもうクッキーじゃないよね。
つていうか、手羽先をクッキーに入れんな口。

「ええっ、まづこですかー！？」

「えつ！？」

「まづいんですね、まづいんですね？」

「いや、だれもそんなこと・・・」

「まづいならまづこって言つてへんぞこよー。」

「うわお、泣き出したー！？」

「いや、だからひみつや、だれもまづいなんて言つてないだろー。(泣)

「みて、里一つたが、女の子泣かせないが」

「ホントです~」

「つわ、かわいわ、桃田ちゃん」

「女の敵、ですわ」

泣きたいのはいつだ

――

「「あさ、「めこりじめーみこなおここひめべーみー」

「・・・・里一朝せいここと里つことですか?」

「・・・・・・・・」

いや、ぶつむやカクツ キーとこはせびいかと・・・
なんて」とは死んでもいいやない。

「・・・・・・・・と思つたから」

「ほんとーへほんとですかあーへやつたあ

つてか・・・・・・

嘘泣き

――?

「よこーじやあもつともつと焼こむやつめ
つとめ、胡麻ラシングツー、エレドシムハガ?」

その瞬間、全員の顔が蒼白になつたのは間違ひでもなこ・・・

第1-2話 桃亜クッキング（後書き）

なんか・・・最近めっちゃ更新遅れていますよね・・・
すいません；

アニメにはまつてしまつてですね・・・

今日なんて一人でそのアニメの最終回みてボロ泣きしてましたから
ね。

ひとりで。

ボロ泣きですよ。

あやしいですよね。
すいません。

えーっと、"J"意見、"J"感想よろしければお願ひします。

第13話 妹属性ロリガール（スパイズ入り）（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツツコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃亜（17？）

いきなり里一の家にきたメイド装束女。
(天然)ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

皆川千亜里

里一のクラスメイトでお隣さんで幼馴染の腐れ縁。
なかなか美人だが馬鹿なのでモテない

武田信一

里一の友達。

基本的には普通だが、若干ずれている。

柊実亜

里一のクラスの委員長で、割とまじめ。
ショートカットのメガネっこちゃん。

浅倉撫子（17っぽい）

婚約者の大和家から逃げてきたヤマトナデシコ。
結いあげた髪にはクナイが隠されている。

第1-3話 妹属性ロリガール（スパイズ入り）

「ねえ、映画行かない？」

学校の廊下で千里に話しかけられた。
桃里は教室で委員長と信玄と撫子さんと「家電じつじつ」をしていく。

「は？ 映画？ 僕が？ 千里と…？」
「違う！…！」

は？ ますます意味がわからねえ。
誘つておいて自分が行かないとか…謎。

「じゃあ誰と？ ひとりで行くほど暇じゃないんだけど」
「いや、ほんとは私が行つてもよかつたんだけど…あの手の映
画苦手なのよ。」
「は？？？」
いつたい何が言いたいんだよ。

「だから、この子と行つてあげてほしのよ」

千里の後ろからちっちゃい女の子が出てきた。
ツインテールで童顔、口リ萌にはぱつぱつ受け…じゃなくて。
「だれ？」
「…」
「…」

え？ 何かしゃべった？ 聞こえないっていうか…。

「三組の仙崎せんざきやくわひやさんよ」

「…………よひしべ

あ、しゃべった。

「あ、うん。よひしべ

「で？ なんで俺がこのおひやこ子と映画を……」

「うん、ほんとはね、この子のお母さんと行く予定だつたらしこんだけど、急な仕事でデータキヤンされちゃつて。チケットも余ってるし一緒にどうへりて言われたんだけど、私このうの嫌いですか……」

「」

うん、なんとなく内容せつかめたよつなかめなかつたよつな？

つていうか千里に及ぶなもんなんであつたけか？

「明日だから。」

「明日！？ 早くない！？ つてこつか超いきなり……」

「…………ダメ？」

え？

見るヒザクロちゃんはウルシとした眼で俺を見て……

「…………ダメ？ 無理なの？」

いや、もう、そんな田で見られたら馬として……

「わかつたわかつた、行くからー」

次の日

「うーーん、ザクロちゃん遅いなあ？
なんだかんだいって十五分は待つてるわ~？」

「……おくれて」めんね~」

背後から声が……！

「あ、うう、全然待ってないし……」

今日のザクロちゃんのファッショントーナム地のスカートヒップの
のパークー。
言つちや悪いなび、ものすうじく供つせ~……

「……あ、じゅあ行こ~……

お兄ちゃん……

「うふ……って、んん？」

「……?~」

「今お兄ちゃんつて言つたよう聞けたんだなび……
てか・お耳つてやつだよね~」

「うふ、聞いたよ……?~」

えーと……なんでかなあ？

「チアリンの入れ知恵・・・」

入れ知恵つて・・・；

「映画・・・間に合わない・・・」

「あ、ああ、ごめん」

そして映画館。

俺はポップコーンを購入。
ザクロちゃんはスルメを購入。

「チヨイス渋いね・・・」

「スルメ好きだから・・・」

なんかチケットの手続きその他もうもうはザクロちゃんがやってくれました。

つていうか・・・何の映画なんだろう？

千亜里が苦手なのつて・・・

あ、動物的感動系かな？

「生ぬるくてきらりーーー
つて言いそうだしな。」

俺は好きだけど。

「始まるよ・・・お兄ちゃん」

兄弟いたことないからなんか違和感・・・

悪い気はしないけど。

最初にCMがやたら長く入つてちょっとイライラ。

ときどき怖いのが入るのがいや。

実は怖いの苦手で

やつと始つたよ。

『赤い日記帳』

え？

赤い日記帳つて・・・まさか・・・

時同じくして里一宅

「里一君たち、楽しんでるでしょうか？」
「さあ？でもザクロちゃんは楽しんでるわ。」
「なんの映画を見に行きましたの？」
「うん、ザクロちゃんつて、ちつこく童顔で超絶口リ系だけどね、
実は、」

「スプラッタなB級ホラーが大好きなのよね

撫子と桃亜は、ホラー映画のCMが出るたびに「ひつ」と上ずつた
声を上げる里一を思い出して苦笑いをした。

しゃあああああ！！！

放送禁止か放送禁止で・・・（ケーブルテレビ放送禁止）

「・・・
・・・
・・・
・・・」

笑うとこ違つよザク口ちゃん！？

一時間後、失神した里一を連れて帰るために、千亜里を通して信玄が呼ばれましたとさ。

第1-3話 妹属性ロリガール（スパイズ入り）（後書き）

どうもどうも！華蜜です（ 、 、 ）
前回の更新からかなり間があいてしまったことを深くお詫び申し上げますm（ 、 ）m

またもや新キャラ登場です・・・

なんか個性の強いキャラ達が増えしていくたびに比較的思考が一般的な信玄が消えていつてしまっています・・・（焦

もつとがんばって一人一人の個性を生かさねば・・・！

次のお話は文化祭です。

思いつきり季節はずれですよねー（汗

御意見、御感想お待ちしております
(個人的な欲求で申し訳ないですが、好きなキャラとか書いていた
だけると個人的にうれしいです。)

第14話 文化祭だぜーー打ち合わせ編（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツツコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃里（17？）

いきなり里一の家にきたメイド装束女。
(天然)ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

皆川千里

里一のクラスメイトでお隣さんで幼馴染の腐れ縁。
なかなか美人だが馬鹿なのでモテない

武田信一

里一の友達。

基本的には普通だが、若干ずれている。

柊実里

里一のクラスの委員長で、割とまじめ。
ショートカットのメガネっこちゃん。

浅倉撫子（17っぽい）

婚約者の大和家から逃げてきたヤマトナデシコ。
結いあげた髪にはクナイが隠されている。

仙崎ザクロ

千亜里の入れ知恵で里一を「お兄ちゃん」と呼ぶ。
見た目は口り系だがスプラッタなホラーが大好物。

第1-4話 文化祭だぜーー打ち合せ編

「第四十九回、梅坂高校文化祭・・・」

「そう！来月は文化祭よー。」

「どうも。お久しぶりです。里一です。」

「そしてなぜかみんながうちに勢揃いです。」

「文化祭って普通は一円ぐらうする物なのです。」

「違ひよ撫子やーん！」

「うそ、そうよー。」

「お前も大声で嘘言つてんじゃねえよ！秋だろー。」

「で、何をするんですか？」

「みんなが変過きて桃姫がまともに見える・・・」

「ふつふつふつふ、聞いて驚かないで頂戴、演劇よー。」

「あんがいありきたりですね・・・」

「どーでもいいが、演劇つて何をするんだ？」

「それを考えるのが我がクラスの委員長、柊美姫の役田よー。」

「えッ！？わ、私ですか！？」

「おーおい、押しつけてやるなよ・・・」

「そもそもそういうのはH.R.の時に決めるもんだろ？それにH.R.でクラスの話をしたらザクロちゃんがかわいそうだろ？が

前回から登場のザクロちゃん。

超絶口リ系でスプラッタ大好き少女。

「つうん・・・気にしないで・・・
私は一人で本読んでるから・・・」

「え？ 何なに？？」

最近影の薄い信玄がザクロちゃんに話しかける。

「赤い呪い・・・あらすじは・・・」

まずい！

ザクロちゃんが信玄にグロイイ小説のあらすじを語りつとじてこーる。
聞いたらきっと眠れない！

「そっ、そんで？何の演劇をするんだ？今年は

話題を戻す俺。

我ながら必死だ。

「今、里一君話題戻しましたね。」

「そうですわね」

「富間君はホラーが苦手なんですね」

「ふふ～ん？弱み握っちゃた」

超ばれました。

「たしか去年はチアリンが書いた『七匹の子ブタと浦島シン』『テレラの烈風伝』だつたよな？」

「 とつても突つ込みビ」る溝

•
L

「ちなみに委員長は意地悪な鏡の役だったわよね」

L

「ちがいますよ。お菓子の城の妖精Eでした」

「去年この学校にいなかつたことをとても悔しく思っています。」

思

「やつにえは里一君は去年何の役だつたなんですか？」

THE VENUS

「浦島シンテレラでしたよね」

終

二
終

「女役ですか？」

「ノルマニ」

うのなんの！」

千里？なに言つてんのか聞こえないけど変なこと桃里たちに吹き

「それで今年はどんな話にしようかしら」「ひい

え、千亜里が書くこと決定形なの？
・・・また女装させられたりしないよね

「お花の妖精さんAを里一に持つてくるのはどうかしらね?」

ヤ メ テ ! ! !

「あつ、私が書いちやだめですか？」

「え？？」 × 6

も、桃畠が書くの？

「いいわよ！」

案外あっさり。

つていうか・・・いやな予感がするのは俺だけかなあ・・・?

第1-4話 文化祭だーー打ち合わせ編ー（後書き）

やつもやつもー華麗です（ 、 、 ）

やつもやつもー華麗です（ 、 、 ）

塾が忙しくなつてしまひつました。

ちょつとずつしか更新できません。

すみません。

さてー今回は信玄君、ひやんと田立してたらこいんですかどもね@

（ 、 、 、 @）

御意見・ご感想お待ちしております

次の更新は3月1日の夕方を予定しております

第15話 文化祭だぜ～～参考資料編～（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツツコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃里（17？）

いきなり里一の家にきたメイド装束女。
(天然)ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

皆川千里

里一のクラスメイトでお隣さんで幼馴染の腐れ縁。
なかなか美人だが馬鹿なのでモテない

武田信一

里一の友達。

基本的には普通だが、若干ずれている。

柊実里

里一のクラスの委員長で、割とまじめ。
ショートカットのメガネっこちゃん。

浅倉撫子（17っぽい）

婚約者の大和家から逃げてきたヤマトナデシコ。
結いあげた髪にはクナイが隠されている。

仙崎ザクロ

千亜里の入れ知恵で里一を「お兄ちゃん」と呼ぶ。
見た目は口り系だがスプラッタなホラーが大好物。

地図一です。

」の間桃亞が『脚本を書く』とか言い出した。

「は？ 桃里に書けるんですの？」

「たゞ、上野の御子さん、おおきなおもてなしをうながす」

そうだね、
参考は去年のビデオを見ない?」

!

「ちよつと待てHNHNHN—」

「チアリン、それはビデオんじゃない？ リーチもこんなに嫌がつてゐるのだし……」

なんて言い奴なんだ…信玄よ…

「えッ、でも私も見たいです」

「よし、チアリン、テレビつけて

おいちよつと待て ハエエエエエエエ

つていうか委員長最強！！

「私も…見たい…お兄ちゃんの勇姿…」

「私も見ますーー！！！」

「満場一致で見る」とに決定よーーー！」

なんかもう…泣いてもいいですか…

七匹の子豚と浦島シンデレラの烈風伝、始まり始まり

昔々あるといひに浦島シンデレラと云う健気で可愛い女の子がいました。

(里一帯がわざわざ来るやうだよーーー)

おね瑛シノトナリ也聞こめた。

「ああ、チンジャオロースが食べたい。」

(ちなみに浦島シン「テレラの声は他の女子の吹き替えよーー。」)

シンティーラは中華料理が大好きでした。

しかしシンシア・レーラは継母と2人の姉にいじめられていました。

「シンガーレハ、あなたに食べさせる中華料理なんてないわ！！」

「そのへんのパンでも食べてもたべやー」

（次女のキャラが謎いです！！）

「そんな横暴はやめろーー！」

そりゃやつてきたのは七四の子豚たちです。

豚A - 子豚アッシュ - - - - -

豚B 「同じく子豚ブルー！！！」

豚C「同じく子豚イエロー！」

豚D「同じく子豚ピンク！！」

豚王「えーっと……あ、
子豚

孫「…………子孫ホワイー！！！」

卷之三

二 脂 一 脂 二 脂 一 脂 二 脂 一 脂 二 脂

青群朋士

（子豚群青が可哀そうになつてきましたわ・・・）

「正義を愛する子豚たちさ（キラーン）」

あの七四の子豚だ」と言つた。?

「かがれの興味」

卷之二十一

「なにを始める気だ！？」

「变身」

—我5一身一体！—

「ビーズクッションドラゴンだべやーー！」

なんとそこに居たのは赤い水着のような布地でできた、あの独特のさわり心地のドラゴンだったのです！！

（癒し系なのか恐ろしいのかよくわかりませんね。）

子豚たちは呆然です。

そこで浦島シンデレラはドーラゴンの後ろに回ると、チャックをいきなり引き下ろしました！！

（あつ、里一君の顔がアップになりましたよー！
とっても可愛いですーーー）

（お願いイイイイイーーー消してH H H Hーーー「」はツ）
（わっさからじゅうじゅうしゃウルサイわねえ、黙りなさいよーーー）

するとチャックの後ろからサラッサラのパウダービーズがこぼれ落ちます。

「わああああああー！パウダービーズは発泡スチロール製イイイーーー」

断末魔を残してドーラゴンは消え去りました。

呆然としていた子豚たちは、我に返つて言いました。

「僕たちの仲間にならないか、シンデレラ」

シンデレラは答えます。

「魔法の鏡と北京ダックを頂戴。」

魔法の鏡（電動）とたくさん北北京ダックを手に入れたシンデレラは、子豚たちと共に花の妖精退治の旅に出るのでした。

(お花の妖精つて敵ですか！？)

ブツツ！！

急にビデオが切れた。

内心ほつとしている俺。

「あ、忘れてたわ。ここでテープが切れたのよ。」

「あ～あ、もうちょっととくに委員長の出番だったのに～

「残念でしたわね、桃亜」

以外と桃亜は残念そうじやなかつた。

「いいえッ、もう構想はばっちりですッ」

そう言つと何処からかノートを取りだしバリバリ書き始めた。

…あれを参考にした桃亜の書く演劇…

本心言つていいですか？

怖い。

第1-5話 文化祭だぜ～～参考資料編～（後書き）

のわあああああ～～

1日に更新するとか言つといて日付変わつてしまつました～～
全力で～めんなさい～～

そしてテストの結果は聞かないで～～

御意見～～感想・その他文句など（苦）あつまつしたらお願ひいたしま
す m (- -) m

第16話 文化祭だぜ～～台本編～（前書き）

キャラ紹介

宮間里一（17）

普通の高校生？

ツツコミ担当っぽい。

一人暮らし中

桃里（17？）

いきなり里一の家にきたメイド装束女。
(天然)ボケ担当っぽい。

普通じゃない。

皆川千里

里一のクラスメイトでお隣さんで幼馴染の腐れ縁。
なかなか美人だが馬鹿なのでモテない

武田信一

里一の友達。

基本的には普通だが、若干ずれている。

柊実里

里一のクラスの委員長で、割とまじめ。
ショートカットのメガネっこちゃん。

浅倉撫子（17っぽい）

婚約者の大和家から逃げてきたヤマトナデシコ。
結いあげた髪にはクナイが隠されている。

仙崎ザクロ

千亜里の入れ知恵で里一を「お兄ちゃん」と呼ぶ。
見た目は口り系だがスプラッタなホラーが大好物。

俺は驚愕していた。

いや、俺だけじゃない。

信玄も、委員長も、撫子さんも、あのクレイジー千葉梨も、クラス全員が

桃亜の書いてきた台本のおもしろさに驚愕していた。

今日の朝、桃亜の荷物がやたらと重そうなのを、何だらうと見ていたが、なんと御丁寧にクラス全員分の台本を印刷して持つて来たのであった。

そのみんなが驚愕した桃亜の演劇を、俺の突っ込みと同時に、ご覧いただこう

普通じゃないけどアリス

昔々…ではなく今！現在！

閑静な住宅街に、アリスという、日本人のくせにカタカナの名前を持つ少女がいました。

ジャージにトーシャツのアリスは思いました。

「早くこのお芝居終わらないかなあ…」

（演劇であること自覚した！主人公なのに！しかもかなりの干物女！）

暇を持て余す受験生アリスは庭をふと見ました。

（勉強しようよー）

なんどそこには時計を持ったウサギっぽい物体が一回ローラーで蠢きながら、

「あ～いむれ～いと～！」

と泣き叫んでいました。

（もうその時点ではウサギじゃねえ…）

アリスは

「何、あのプリンは？」

と思い、庭に飛び出しました。

ウサギっぽい物体は一回ローラーと蠢いていましたが、アリスの目の前でふと消えました。

なんと目の前には深い深い穴があつたのです！

アリスは少し戸惑いましたが、これもあの生物を捕獲、学会に発表そして大金を貰うためです。

（アリス計算高ッ！）

アリスは穴に飛び込みました。

穴は思った以上に深く、長い間アリスは落ちていました。

しばらくすると、アリスは地面上にたどり着きました。

「あのプリンセスに行ったの？」

アリスはウサギを探します。

すると、小さな小さなドアの向い側で、何かが這いつぶつな音が聞こえできました。

そのドアは鍵がしまっていましたが、アリスはカメメ波で破壊しました。

（アリス最強！）

しかしドアが小さすぎて入れません。

アリスはポケットからスマルラートを取り出すると、自分の体に当てました。

アリスは小さなドアの中に入りました。
するとそこは、ニコーリー・ラングでした。

（ワンドーランドの間違いだろ…）

「ニコーリー・ラングを歩くつゝ、アリスは一匹の猫と戦いました。

猫は言いました。

「今から言うなぞなぞに答えてみなよ。パンはパンでも食べられないパンはなーんだ?」

アリスは思いました。

猫の言葉は通じていませんでした。

アリスは猫を素通りして行きました。

一 答えはまずそうで食べられないから納豆パンです！」

(えええええええ！？)

猫は負け惜しみで叫びました。
次に、アリスが出会ったのは、道ばたにレジャー・シートを引いてお茶会をしている人たちでした。

「あなたはだれ？」

キャラップをかぶつたキャラのような人が答えました。

「俺はーア、帽子屋つてーH、呼ばれてるよおー、実家は農家だけ
どねえー」

次に、ウサミミをつけたゴシックでロリータな人が答えました。

「わたしは三四年うせで。だپون 三四年タンつてよんどپون 年は、30後半だپون」

(こい年して「スプレか ！ ）

次に、眠そうな顔をしたハムスターが言いました。

「 わあわあわあわあ … わー … 」

(もう既に自己紹介でもないよね …)

アリスは言いました。

「 個性がないのね 」

(大有りだー！ ！ ！ ！)

アリスは素通りしました。

三人はアリスを引き留めるべく、息を合わせて叫びます！ ！ ！

「 待つてよー 」

「 w a i t

「 … くかー … むにゅ … 鮭 … 」

(ばらばらだ ！ ！ ！ ！)

鮭つて第10話での撫子さんの寝言とかぶつてゐるし … … ）

(… ハムスターしゃべれてるし …)

アリスは素通りします。

アリスが歩いていると、豪華な黒いドレスを纏つた赤い髪の女人と出会いました。

「あなたは誰？」

「私の名はハート。この国の女王よ。」

「ふーん」

アリスは早く家に帰つて晩ご飯が食べたかったので、素通りしようとした。

「お待ち、小娘！！」

ハートは怒りました。

「ジャック！！小娘を処刑しておしまい！！」

「どこからともなくジャックと呼ばれた青年が現れました。

手には大きな鎌を持っています。

さすがにこれにはアリスもビビつきました。

「銃刀法違反じゃん！？」

アリスは駆け出しました。

ヒュウヒュウヒュウヒュウ

姉が心配そうに顔をのぞき込んでいます。

「アリス、大丈夫?」

アリスは起きあがつて言いました。

「誰?」

(姉じゃないの!?)

「私の変装を見破るとは…おぬし、なかなかやるな!…」

(姉!?)

「お前は既に死んでいる…」

(アリス!?!?)

「な、なんだつてえ!…う…ぐはああああ…」

「うして姉は死にました。

アリスは平和を手に入れました。

終わり

「すげえ…」

「桃亜ちゃん、天才よ!…」

「すごいです桃亜さん!…」

大絶賛である。

そのとき信玄がボソリと呟いた。

「山本じゃなくて小説じゃん…」

それを言つちやあおしまいよ…

次回、ついに本番！？

第1-6話 文化祭だせ～～台本編～（後書き）

（補足）あいむれいと I - m late!! 遅刻だ!!

更新遅れてしません!!

えーっと・・・

すごいことになってしましました・・・（内容が）

ブログを開設してしまいました。

ヨタクなことが延々と書き綴られております。

作者紹介ページより行くことが可能・・・にします！

まだ繋げてません・・・

今から繋げます。

つてことで。

御意見御感想お待ちしております**

第17話 文化祭だぜーー役決め・本番後編（前書き）

面倒くさいし、縦にじんじん伸びていくので、レギュラーメンバー（里一・桃亜・千亜里・信玄・委員長・撫子・ザクロ）のキャラ紹介はやめました。

ゲストキャラのみの紹介にしたいと思います。（詳しくはあとがきにて・・・）

東海林理沙

久々登場の美人教師。

若くてきれいだが、生徒をいじめ倒すのが趣味という、どらな人。もつたいない・・・

第17話 文化祭だぜーー役決め・本番後編

「こんにちは。

宮間里一です。

・・・戦いが、やつてくる。

「それでは演劇の配役を決めたいと思います」

戦争は、ある日のH.R.にて、委員長の一言で始まった。

決めるべき配役は以下の通りだ。

- ・アリス
- ・ウサギっぽいもの
- ・猫
- ・帽子屋
- ・三月うさぎ。
- ・ハムスター
- ・ハートの女王
- ・ジャック
- ・姉
- ・その他（大道具、衣装、などなど・・・）

・・・アリスだけは絶対に避けたい・・・・・

「それでは、アリスの役について、立候補はありませんか？」「はい！はいはい！」

千葉里が手を挙げた。

え、千亜里がするのか？

「富間君がいいと思います！！」

！……？

「ちょ、ちょっとまでえええ！！」

「なに？なんか文句でもあるの？」

「大アリだこの野郎！！」

すると、委員長は困惑したような表情で、
「じゃ、じゃあ、賛成の人は拍手！」

パチ、パチ。

よっしゃー！

案外少ないぞ！

つていうか、叩いてんの誰だよ？

「あら、みんな、どうして叩かないのかしら？つふふ

久々登場東海林先生

！！

「私は見たいわ。里一君の女装。去年は私いなかつたものね それ

に・・・」

それに・・・？

「そんなに嫌がる顔されちゃあ・・・いじめたくなっちゃう」

ドウキタ

「柊ちゃん、担任命令よ　彼をアリス役に抜擢します」

「いやあ、超監督桃里として、里一樹の女装はまづつけましたよー。」

——ヶ月後、本番終了後（の帰り道）——

もつ考えたくもないよ。

110

「いやあ、でも委員長のハートの女王も似合つてたよね」

道具の信玄が言つた。

おとなしくつて真面目な柊実亞という委員長は、ハートの女王役だったのだ・・・

しかも、

「・・・みありん・・・感情こもりすぎて怖かつた・・・」

あの「大好物はホラー映画」なザクロちゃんを半泣きにさせたまでは、
それは・・・恐ろしかったのだ・・・

「ええつ、そんなことないですよー。」

そして、その演技につられてか、もともとの不幸体質のせいか、なんど練習しても、

「処刑しておしまい！」

と委員長が叫んだところで、セットの一部分がぶつ壊れたり、誰かの衣装が破れたりしたのであつた。・・・

「本番は何もなくてほんとーによかつたわね」

「アーニー、十哩だつてゴスロリウサガシ似合つてましたわ」

昔からフリフリ・リボン・キュート系が苦手な千畳壁には、二重の
セザンを推薦してやつたわー！（仕返し）

泣き声になりながら語尾にピヨンをつけて話していた。

「撫子ちゃん、んだつて、猫の役がとても・・・」

桃里は、撫子さんがからむけし墓クナイに手をかけたといひて口をつぐんだ。

あれこそ銃刀法違反だろ・・・

「楽しかつたな。」

まあ、そんなことがあつたりしたのだが、結局詰めるにせ・・・

「・・・そうね。楽しかったわ。」

「はい。私もそう思います。」

「委員長がそいつなら俺も！」

「私も・・・来年は監督と同じクラスに・・・」

「来年はもつとまともな役がやりたいですわー！」

「俺はちゃんと男役で出たい・・・」

「ダメよー里ーは次も女の子の役なんだから

「なんでだよー！」

「私が男の子の役ででみようかしら」

「委員長がお姫様でー、俺が王子・・・ぐふあー。（鼻血）」

「私が姫・・・？って、大丈夫ですかー？」

「・・・信玄・・・どんどん変態路線に・・・」

「実姫の鈍感もいいところですわー！」

「信玄、大丈夫かよーお前も馬鹿だなあ・・・なあ、桃姫？」

「そうして気づいた。

桃亜は数メートル離れたところに立っていた。

「おい、桃亜？早く来いよ？」

表情は無く、何かを考えているように桃亜は立っていた。

みんなも振り返って桃亜を見る。

「桃亜ー..どうしたんだよー..」

「えッ、あッ、何でもないです！」

メイド服をふわっとわせながら走ってくる。

「何でもないことないだろ？」

「そうよ。大丈夫なの？」

「大丈夫ですよ！今日の晩御飯は何かなあつて考えてたんです。」

「何、だよ、心配させんな。」

「すみません」

桃亜の笑顔が夕日に照らされる。

「ほら、帰るぞ。」

「はいー。」

私は、来年も監とこられるのでしょうか？

ちょりーつす

更新が遅れてしまつたことを深くお詫びいたします・・・

前書きにも書きましたが、レギュラーメンバーの紹介をやめました。めんどくさいつてのも大きな理由ですが、やつぱりキャラが増えてくると長くなつてきちゃいますよね？

前書きにも限度がある（たぶん）し、前書きばっかり縦にビヨーンつてのもどうかと（^—^；）

一段にしてもいいんですけど、携帯で読んでる人が読みにくいかなあつていうのが一番大きな理由です。

あつ、でもでも、「絶対前書きあつた方がいい！」って人がいましたら、「連絡ください。
復活する・・・かも？」

それから、ブログに番外編のせました
どうぞ、「らんくださいませ

私の大好き女装里一くんが盛りだくさんの、「里一と千里里の中学版」です！

御意見、ご感想、お待ちしております！

次の更新は・・・一週間後かなあ？

久々登場のキャラは特にないですね。

第1-8話 がんばれ信玄！？

ちわーつす！

信一です！

・・・え、誰だつて・・・?

・・・信玄ですけど・・・?

あだ名でしか覚えられていない俺つて・・・

今日はなぜか俺目線？？

ん～、里一になんか悪い気がするぜ。

まあ、気にしない気にしない！

さて、今日から黄金週間だぜ！－！

まあ明日は学校あるんだけど。

・・・ひまだなあ・・・

みーじー

里一の家に押しかけ・・・

え？？そのネタは前にやったって？
何の話だよ。

しうつがないなあ・・・じゃあ・・・

買い物にでも行くか！

スーパーの前

適当にアイスでも買って帰るか。

「おい桃里！俺は納豆を取つてこいつと言つたんだよ。どうして甘納豆を取つてくるんだよおおーー！」

「違つゝ謂謂野郎おぬ様」

・・・今日も絶賛新婚さん(?)だな・・・

あ！信玄！聞いてくれよこいつかわあ。。。

違ひます! 「われは里一君の心の底の問題であります! 」

・ なんていうか ・ 兄妹げんかみたいだな ・ ・

卷之三

「え？俺はアイス買いに…・・・」

あさひで実垂ちゃんほし人見ましたよ」

! ! ! ? ? ?

「……………」

「えッ・・・えーっと・・・魚のとこですか・・・?」

魚のと」

「信玄・・・お前完全に拳動不審だぞ・・・」

「ふつふつふつふ・・・」

俺と信玄と桃畠は魚のとに来ている。つていつか委員長いた。

・・・信玄のやつこ委員長ラブにはまいつてしまふ・・・

・・・あーー俺（里）田線に戻つてゐー

「これは・・・ストーキング行為ですよね?」

「・・・桃畠。今だけは眼をつぶつてやつてくれ・・・」

さつきから「はああ・・・委員長は可愛いなあ・・・」とか横から聞こえてくる・・・

あれだな。もう末期症状だな。

「・・・告白しちゃつたらいいのー・・・」

ぼそつと桃畠が呟いた。

信玄の顔が信号の赤に染まっていく。おもしろいな。

「そそそそそー!」

わかりやすいな、こいつ。

「無理無理無理無理!」

「無理じゃないですかーーー？」

・・・・・ーーー?

「「撫子さんとーーー?」」

一つの間にまた俺の後ろに・・・

「ナウフジウジウジウジしてーのだからダメなのですわーーー」

ええ ーー?

「ほーひー! 行くーーー!」

撫子さんはいつも着物姿のまま自分の身長より三四十センチは高い
信玄の首根っこをつかんだ。

「ひッーー?」

「撫子ちゃんは昔から馬鹿力ですね」

「怪力と言つてちょうどいいですかーーー?」

びつも一緒にしないですか?

信玄の首根っこをつかんだ撫子さんはそのまま・・・放り投げた。

べさつ。

委員長の真後ろに着地する信玄・・・哀れ。

いきなりの効果音に驚き、委員長は後ろを向いた。

「あれ？信玄君ですか？」

「わわわわわわッ！委員長！」

「どうしたんですか？ 尻もちなんかついちゃって・・・」

委員長は信玄に手を差し伸べる。

「……それから撫子さんがクナイを構えてるのに気付いて、
「ないことはないんだけど……」

「ああああああーもー！」

躍起になつたか、信玄！

「委員長、俺と付を合って……」

言つた

「いいですよ？お肉売り場でしょ？私もすき焼き肉買って来いつて
言われてるんですよ」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「また・・・・これは・・・・」

「ベタな・・・・勘違いネタですわ・・・・」

「哀れ・・・・信玄・・・・」

里一宅

「おい、信玄。そんなんに泣くな。」

「・・・・ぐすん・・・・・・」

「実亜の天然ボケもぴか一ですわ・・・・」

「救いようがないですね」

「ひひひひひひ、ひひひひひひ」

「里一、電話ですわ。」

「撫子さん出て、お願ひ

「じょうがないですわねえ・・・

がちや。

「もしもしく富間ですか」

『あ、撫子さんですか?』

「実亞ですか?」

『はい、終です。』

（・・・これは・・・今は信玄に知らせない方がいいのかもしだせんわ・・・）

「どうしましたの?こんな時間に」

『はい、今日なんかスーパーで会った時に信玄君が石化してたなあつて思つたんですけど、何があったのかなあ、つて思つて』

「・・・・・」

『どうしたんですか?』

「率直に聞きますわ。実亞は信玄のこじりひ垂つてまして?」

『じつって・・・普通に好きですよ?』

『は?それはどういふ意味で・・・』

『恋愛感情的に。』

「・・・・・・・・・・・・・・

『それで、石化してたわけは・・・』

『実亞・・・・鈍感もいいところですわ・・・』

『ええ？ なにが・・・』

ガチャン。

「撫子さん、誰からだつたんですか？」
「いいえ。なんでもないですわ。」

「信玄。」

「・・・なんですか？ 撫子さん・・・ぐすん」
「がんばりなさい。」
「・・・は？」
「頑張れと言つていいるのですわ！」
「ははははい！」
「私はもう寝ますわ。お休みなさい」
「撫子ちゃんもう寝ちゃうんですか！？ まだ8時なのに・・・」
「・・・一人になりたいのですわ」

「・・・・・？」

「もつ・・・呆れてものも言えませんわ。」

第1-8話 がんばれ信玄！？（後書き）

ちゅうりーすッ！

こんばんは！

今回のお話は信玄君がメインでしたね。

・・・撫子さんかも。

一週間前、「次の更新は一週間後」とか言っちゃったせいで、眠たいのをじりじりがんばって書いています。

えー、じ意見、じ感想、お待ちしております。

第19話 手紙

「桃里一、何か手紙来てるぞー」

「ええええー?」

「んにちは、桃里です。

私のもとに、彼から手紙がきました。

「・・・驚きすぎじゃねえ?」

「・・・いえ、そんなことは」

うわうす感じではいたのです。

あの人気が電話なんてよこすわけがないのです。

貴女が借金のために働いているのは存じております。
ですが、もうそろそろ終わりにしてもいいのではないかと思します。
借金の方は私から払つておくことにいたします。
あの男のもとには決して帰らないように。
いいですね？

桃亜、帰つてきなさい。

母
よ

「・・・里一君？」
「何だよ」
「里一君にとって、私つて何なのでしょうか」
「は？」
「なんとなく、思つただけですけど」

「それは・・・

「やつぱついいです」

「なんじゅそりゅ。」

私は貴女の玩具ではあります。

そしてあの人玩具でもあります。

お母様、貴女は何をお考えなのですか？

「里一君、折り入つてお話をいります。」

桃亜が俺の前で正座をした。

メイド服で正座つて・・・

「なんだよいきなり・・・お前今日変じやないか?」

「一緒に来てください、母のところへ。」

・・・・?

「・・・お前、それ意味わかつて聞ひしんのか?」

「はい? 一緒に、母と戦つていただけますか?」

戦つ?

意味が・・・わからないんだけど。

第19話 手紙（後書き）

- ・ 修学旅行とテストが綺麗に重なっちゃって更新遅れちゃいました・・
- ・ とりあえず短編をう〇します。

なんか・・・シリアスになっちゃいましたね。

がんばります・・・ハイ。

御意見御感想お待ちしております

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8300c/>

メイド桃亜の非常識な日常

2010年10月28日08時57分発行